



日吉の丘

2002年7月1日・第3号

函館ラ・サール高校同窓会
函館市日吉町1丁目12-1 ☎0138-52-0365



(校舎全景)

待ちに待った東京同窓会、遂に誕生 250名参加し盛大に創立総会 満場一致で初代会長に菅原宏之氏(1期)を選出

去る4月19日、東京中央区のロイヤル・パークホテルにおいて、函館ラ・サール高校東京同窓会(東京支部)創立総会が、在京の同窓生250名の出席の下、盛大に開催されました。

函館ラ・サール高校は1963年3月に第1回の卒業生を輩出して今年で満40年を迎え、卒業生の数も1万名の大台を既に超えましたが、同窓会は同じく1963年の夏に誕生し、幾多の変遷を経ながら、同窓生相互の親和向上に努めて参りました。この間、十勝支部、札幌支部、関西支部が誕生し、より密なる活動が実現しましたが、東京支部については、10年程前に組織されましたものの、諸般の事情で休止状態を余儀なくされたまま今日に至って参りました。この度、在京の同窓生有志の尽力で復活を果たすことになったものです。これにより、同窓会活動は更に活発になるものと期待されます。

総会に先立ち、準備委員長の菅原宏之氏(1期生)が、これまでの経過を報告、その後の総会で、同氏が初代会長に選任されました。

会報発刊に当たり、菅原東京同総会会長より以下のメッセージが届けられております。

なお、来年は2003年ということで、3期、13期、23期の方々が幹事役となって同窓会総会開催の準備を進めるということです。

ご挨拶

函館ラ・サール高校
東京同窓会 会長
菅原 宏之(1期)



去る4月19日(金)第1回函館ラ・サール高校東京同窓会を開催し、盛況の内に終えることができました。250名以上の出席者となり、準備委員のメンバー他関係各位の方々のご努力に心より感謝申し上げます。10数年前に160名程が参加し、一度東京同窓会を開いた事がありましたが、その後が続かず今日に至ってしまいました。その意味では、第2回ということになるのですが、今回は前回の轍を踏まないよう準備に十分時間をかけ、規約作りや役員選任等々、同窓会活動の基礎を固めました。今後も皆様のご協力を得て、毎年同窓会を開催することが出来る様にしたいと思っております。

我々の同窓会には、多士済々のメンバーが揃っております。各期のパワーを結集して、総会の他、名簿やホームページの作成、各部会の設置、講演会事業の立ち上げ、仕事や趣味の情報交換、先輩・後輩の交流支援など、様々な分野で活発な活動を展開していきたいと考えております。どうか、皆様の末永いご援助・お見守りを心よりお願い申し上げます。



1期生の亀谷 中行さん撮影

2002年 函館ラ・サール高校 同窓会総会

日時
8月10日(土) 午後6時

会場
ホテル函館ロイヤル
(函館市大森町・☎0138-26-8181)

会費
5千円(ただし大学生は2千円)

同窓会に出席し、懐かしい友や恩師と再会しましょう。多数のご出席を期待しております。
問い合わせは、同窓会事務局まで
☎0138-52-0365

同期会開催案内(判明分のみ)

各期毎に同期会が設けられ、毎年、あるいは数年に一度、親睦の会が催されていますが、今年から来年にかけての日程は次の通りです。

1期生=来年8月開催(3年振り)、3期生=毎年1月2日開催(ホテル函館ロイヤル)、5期生=毎年1月2日開催(ホテル函館ロイヤル)、11期生=毎年1月2日開催(来年の会場未定)、15期生=10月開催(5年振り)。

会員の皆様へ 同窓会会員名簿作成 へのお願い

函館ラ・サール高校同窓会では、5年に1度、同窓会会員名簿を作成しておりますが、来2003年が次回作成年に当たります。現在、その準備を進めていますが、住所変更のままの状態のため、現住所が不明の会員も相当数おります。今会報に同期の方々のうち現住所不明者リストを同封しましたので、お分かりの方、心当たりのある方がいらっしゃいましたら、是非、ファックスでお知らせ下さい。同期の方でなくとも、住所が変更になった方をご存じでしたら、併せてお知らせ下さい。

同窓会事務局

支部だより

平成14年度札幌ラ・サール 同窓会開催について

9期 勝本 茂雄

今年は、サッカーの世界カップ大会が日韓共催で開かれ、札幌でも1次リーグ3試合が行われました。これに伴い、各国のサポーターが大通公園のあちこちに集い、サポーター同士仲良く交歓・交流する光景が繰り広げられていました。

我々ラサーリアンも各国のサポーターに負けずに、久しぶりの再会を果たし、交歓・懇親を深めたいと思います。函館から先生においで頂き、なつかしい話や現在のラ・サールの様子を伺いたいと思っております。毎年函館ラ・サールの同窓会には、鹿児島ラ・サール出身の方も出席されており、函館・鹿児島の両ラサーリアンの親睦を深める場ともなっております。是非、多くの方々が参加されん事を幹事一同心から願っております。

◎

日時 9月7日(土)
17時～18時 講演会
18時～20時 懇親会

場所 ホテル ライフォート札幌

(札幌市中央区南10条西1丁目・地下鉄南北線「中島公園駅」下車徒歩5分・TEL (011) 521-5211)

尚、講演会の講師は、田中士郎氏(9期)を予定しております。担当幹事は、9期・19期・29期・39期です。

函館ラ・サール高校 小樽支部のご紹介

6期 末永 通

当時、小樽にいた同期の那須良明君(三菱地所)から、小樽には相当の同窓生がいるので、同窓会を立ち上げたらどうだろう、という相談を受けたのは1994年(平成8年)の1月のことでした。同窓会名簿から拾い上げた方々をお誘いし、同年2月8日、寿司屋通りの「まちの」に集合したのは4期を筆頭に10名の方々でした。

何はともあれ、青春前期を語り、共通の話題で会話が出来る仲間がいる会合が発足したわけです。

転出された方もおられますが、転入された方をお誘いし、年に2～3回のだべりの会ですが、途絶えもせずが続いています。登録しているのは30名ほどですが、2000年には、地元現役学生に声をかけたところ、小樽商大の遠山宗希君(現在サントリー)が参加してくれましたが、8

期の遠山雅士君の息子さんとのことで吃驚しました。個人的なことで恐縮ですが、やはり8期のなくなった弟、勉の友人だったからです。

地域としての小樽では、こぢんまりとしてはしていますが、まとまりがよいと考え小樽支部を立ち上げました。支部の認定には渡辺良三会長のご助言をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後、ラサールネットにも紹介し、鹿児島島の卒業生で小樽在住の方が居られたら声をかけようと思っています。会報をご覧になり小樽・後志にご縁のある方、あるいは、同窓の方で小樽に興味をお持ちの方がおられましたら

lasalle_otaru@mac.comで幹事の方につながります。ご連絡をお待ちしております。

西日本支部からの近況報告

4期 藪越 英昭

去る平成14年5月12日(日)京都ホテルオークラにて聖ラ・サール生誕350年京都集會が開催されました。

この集會は、昨年9月の第3回函館ラ・サール高等学校西日本支部の同窓会の席上で、幹事の本吉大生様(4期)から発案があり、ご出席をいただいたアンドレ・ラベル校長先生も共鳴され実施の運びとなったものです。

京都集會は、午前11時より第1部聖ラ・サール生誕350年祭として、聖ラ・サール感謝式、物故者追悼式をチャペルにてラベル校長先生に司式をお願いしました。聖ラ・サールの生涯について詳しくご説明があり、出席者全員(40名強)でラ・サー



修道院御堂

ル讃歌をフランス語で合唱しました。

第2部は、藤井眞吾様(11期)がディレクターをつとめ記念コンサートを開催。ラ・サールなかよし会のメンバーである澤朱里様(オルガン担当)、京都市交響楽団のドナルド・リッチャー様(チェロ担当)、プロ顔負けのギタリスト丸木智様(8期)と抜群の音を奏でてくれるプロのギタリスト藤井様による素晴らしいコンサートで堪能する事が出来ました。特に聖母マリアに纏わる聖母マリア幻想の演奏はいつまでも余韻として残りました。

第3部の懇親会には30名強が出席、鹿児島ラ・サールからも下園様(鹿4期)、軸屋様(10期)、島津様(12期)、柴田様(13期)が出席され、和やかな中、楽しいひとときを会員で共有できました。最後にラベル校長先生からあたたかいお言葉も頂戴し、両校にとって記念に残る素晴らしい一日であったことと心より感謝申し上げます。

追記として、第4回の函館ラ・サール高校西日本支部同窓会は9月2日(日)、昨年同様、大津の琵琶湖ホテルでの開催が決まっております。

同窓生の皆様におかれましては同期の方へ積極的なご連絡をお願いし、ラ・サールファミリーの和を広げていきましょう。

同窓生の皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

同窓生から

東京ラ・サール会からの報告

12期 中富 清和

第2回東京ラ・サール同窓会総会が4月19日(金)、ロイヤル・パーク・ホテル(日本橋)で盛大に開催されました。参加者約240名と前回(約150名)をはるかに上回り、幹事役を努めた1期生の方々の熱意が見事に反映されました。会長の菅原宏之氏を中心に、1期生の方々の尽力に感謝申し上げます。

函館からは恩師の遊佐悦大先生、中越讓先生、山本憲朗教頭先生、又、函館の同窓会を代表して渡辺良三氏、菅野剛造

氏らも出席してくださいました。在京の方としては、ラ・サール修道会日本管区長ホルヘ・ガヤルド氏、山屋(橋本)京子さん等も参加してください、旧交を暖めました(来客の方のお名前すべてを記すことができず、お許しください)。

かつて中越讓先生は、「同窓会は人生のバック・ミラーである」と語っておられましたが、名言です。現在、私達は社会の第一線で活躍していますが、前進するには後方の状態を見ることも必要です。同窓会は、未来への前進・飛躍のための反省の場であり、激励の場です。240名のラ・サーリアンが集うことによって、若き日の自分が戻り、志と決意を新

たにし、生きる活力がみなぎります。

当日は、受付を手伝いながら、私の本『無と愛の哲学』（北樹出版、本体3,700円）を細々と売っておりましたが、遊佐先生と鹿児島ラ・サールの東京支部長深江方次氏のアピールによって、25冊も売れました。深江氏は、鹿児島ラ・サールを代表して挨拶したのですが、その際、約240名の前で高々と私の本を掲げ紹介してくれたのです。壇上で固い握手をし、函館と鹿児島の心がしっかり結ばれました。ちなみに、私の本は、古今東西の無の探求を通して（老子、荘子、仏教、聖者、パスカル、ニーチェ、ハイラガー等）、無→無限→永遠→超越者（神）→愛（仁、慈悲、キリストの愛）へと連続する無と愛の原理の提唱です。単なる哲学者の研究ではありません。私自身の体験を踏まえた独創の書です。

恩師の遊佐先生からは、「独自性において中富哲学の誕生」との言葉を頂き、又、13期生の佐藤貢悦君（筑波大学助教授、中国思想、比較思想）からは、「生きた哲学」の賛辞を受けました。数十名の大学の先生方からも同様の言葉を頂いています。6月8日には比較思想学会（会員約1,000名）で学説を披露します（学会で本そのものを発表するのは極めて異例。司会者も私の本を精読し感銘を受けたお茶の水女子大学の先生です）。ラ・サール発の哲学ビッグ・バンを起こします。こうした報告ができるのも同窓会の素晴らしさです。

最後に、5月18日（土）、鹿児島ラ・サールの東京総会が東京一橋の如水会館で行われ、函館からも一期生の菅原氏以下十数名が参加。活発な交流がなされ、ラ・サールさらにはキリストにあって心が一つとなりました。

語りの伝統

34期 吉田 勇一郎

同窓生の皆様、こんにちは。34回生の吉田です。【私は母校ラ・サールを卒業後、



鹿児島ラ・サール東京総会に出席した函館ラ・サール同窓会会員の面々

実学を志し慶應大学に進学しましたが、古典への興味と厳密な学問に対する憧れから、早稲田の文学部に学士入学しました。現在は同大学修士課程に在籍し、印度の古典思想に関する文献学のトレーニングを受けています。】

自分にとって、ラ・サールでの3年間はどんな意味を持ち続けているのか。寮生活で体験した人間的成長、生徒会で育まれた社会性、クラブ活動で得たかけがえない友人関係…収穫の多様さは語り尽くせませんが、この場ではひとつ個人的な思い入れを述べる僭越をお許し頂きたいと思います。

それは、3年間、国語を御指導いただいた寺島先生の授業に対するものです。雑談の名手たる先生は、初回の授業で教科書から脱線した記号論の話をされました。私は耳慣れない議論に圧倒されながらも、心が沸き立つのを感じていました。東北の片田舎で生まれ育った私が初めて触れえた知の薫りだったのです。爾来、私は並み居る名物授業のなかでも、ことに先生の授業を楽しみにし、その雑談に酔いしれました。現在の志望に関しても自分の選択に強い確信を与えてくれたのは、あの数々の挿話で感じた知的高揚感です。私は今でも先生に恥ずかしくない人間になりたいと願っています。そうした未来への責任感としてこそ、先生の語りは生きていくのだと思っているからです。

末筆ながら、皆様の益々の御活躍と、母校ラ・サールの語りの伝統が末永く紡ぎ出されていくことを心よりお祈り致します。

食の本質

29期 受川 清二

昨年8月、私は故郷の帯広にて、醬健身（じゃんけんしん）というオーガニック食材を中心とした、ラーメン店をオープンさせました。醬（じゃん）とは中華で調味料を表し、天然の醬を食生活に



校舎正面

取り入れて健康な心と体をというメッセージを込めた店名です。北海道のラーメンの三大要素である、合成かんすい（麺にコシをだす薬品）、ラード、化学調味料類を排除した味は、添加物に慣らされた現代人の大多数が好む味ではないため、お客の反応は両極端です。日本全国で食べたラーメンの3本指に入るという人（なぜか僧侶が多い）もいれば、味がしないとあって大半を残していく人もいます。一喜一憂の連続ですが、ファンが少しずつ増えています。ファンの増加にはラーメンの味以外に大きな要因が二つあります。一つは現在も（今年で8年目）ラーメン店終了後に塾の講師として中学生に勉強を教えていることです。教え子や家族が食べに来てくれたり、宣伝してくれたりします。二つ目は定休日の水曜日に地元FM局へレギュラー出演していることです。ラ・サールから慶應そしてラーメン屋という経歴の面白さから抜擢されました。

ラーメン店、塾、ラジオと忙しい毎日ですが、高校時代に、勉強、サッカー、チューター活動という寮生活に鍛えられたおかげで、かつての自分には負けられない気持ちで頑張っています。

「しごと」とは人に仕える事（仕事）ではなく、志をなす事（志事）だと思っています。これからも食糧基地十勝で、人に良いと書く『食』の本質を提案しながら、食・教育・文化を三本柱として精力的に活動していきたいと思っています。

恩師より

近況の報告

牛島 義博



同窓生の皆様、お久しぶりです。先日、及川先生より同窓会誌に文章を書けとの申し出があり、戸惑っておりました。

皆様には、その後社会に出て大いに活躍されていること耳にし喜んでるところです。

私は平成11年3月に定年を迎えて、在職37年間は充実感に満ちた生活であったと振り返っています。皆様の持つ柔軟性に富む心と、発展的に捉える目と、豊かな行動力を持って接してくれた素晴らしい環境の提供に他ならないものと深く感謝しております。今ものその残像と気力を維持して、これからの生活設計を練っているところです。

少年期に幅広い自然体験を得る為の施設を作り、ささやかながら活動したいとの願いから準備を始めたところです。第1段階としての、基地としての施設となる場と建物が確保できたところです。知内町小谷石、旧矢越小学校を借受ける。附属施設グラウンド、校長・教頭住宅2棟(体育館解体は残念)。立地、漁業の村、このさき道のない端の村、海・山・川南東に開けた津軽海峡に面する自然豊かな美しい土地。

平成12年、鳥類標識調査員ライセンス取得(環境省委託山階鳥類研究所)。この調査はカスミ網を使用して鳥類を捕獲し、アルミ合金製の足輪を着装。必要事項を記録の後放鳥する。鳥類の生態研究の資料となるボランティア活動。この調査に見学参加させることで身近なスズメも別な顔をあらわす。

調査義務もあるので、この辺からスタートしたいと予定しています。

海産・淡水・陸上の動植物、地質等と限がないのですが、まずは、この土地特産のものの調査からはじめてみます。

自然科学分野の動機付けとおさえて、その方法、設備・備品、利用対象、スタッフ、経費等、これから発展させるとすれば種々問題があるものと思います。ここで専門研究の立場にある、このような企画に関心を持つ、あるいは携わっているOBの皆様のご助言を頂きたくお願いいたします。

必要以上に書き連ねました事をお許しください。

現在、週2日8時間の非常勤を依頼されておりますので、来年度より本格的に取り組む予定です。私は元気でおりますが、気持ちだけなのかもしれません。全体的に老化は進行中で、授業における身体能力も低下の一途。罪悪感を抱いて授業に望んでいます。60歳を過ぎた体育講師は犯罪だとも考える今日です。今年度で開放される日を楽しみに頑張っております。

皆様には明日をも計れぬ土台の定まらぬ不安な時代、只々、健康第一で頑張り抜くことのみ祈っております。来年度から知内での生活も多くなると思います。風のそよぎ、草木の香、川の細流を肴に一杯如何ですか。是非の来訪を楽しみにしています。

近況報告が依頼文となってしまう、どうぞお許しください。

井の中の蛙40年

函館ラ・サール高校

専任講師 笹原 修



「こんにちは オラ 悟空蛙だ」先輩の孫悟空は岩の中から三蔵法師が救ってくれて、はるばる天竺まで行って大活躍したというのに、オラの方はラサール井戸の中に40年も住み続けている。今年も定年とやらで、縁まで上がってきたが、また井戸の中にポチャンと逆戻りしてしまった。ちっちゃな井戸だが、ここから1万2千疋以上の子蛙たちが広い世界に巣立っていったもんだ。このラサール蛙たちの活躍が何と言ってもオラの自慢であり誇りである。

オラは小さい頃からずっと小柄だったせいか、船乗りとか外交官とか、とにかく広い世界で活躍することにあこがれていた。「世界がどうの」「アジアがどうの」と大言するマセガキで、そのうち、教師を志望するようになった。仙台の蛙大学の教育学部に入り、西洋史を専攻した。世界史の教師にと思ったのは、小さい頃からの夢のこだわりとも言える。教師になってオラの分身をたくさん造るなんてことを考えたり、卒論では、未来を予測できない“歴史”なんて意味がないと教授とやり合ったりもした。

1962年、オラがどうしてラサール井戸に住みつくことになったかは色々あるが、因縁というものかな。この場所はオラが生まれ育った湯川から目と鼻の先で、当時はジャガイモ畑の真ん中だった。

当時、この井戸は出来たてで、真水のように色もなければ味もない。中では個性派ぞろいの教師蛙がそれぞれ思いのままに泳ぎまわっていた。新米教師のオラは一回生(当時3年生)になかなか手荒く迎えられた。だが、教師は天職だと信じるオラは怖い物知らずで、夢中で如意棒(世界史掛け図)を振り回しているうちに、やがて「一国一城の主」(大場先生の口癖だった)におさまった。

1969年、この井戸が大揺れする事件が起こる。子蛙たちが「制服制帽の廃止」を要求して騒ぎ出したのだが、実は、生徒の自治と自由の要求であり、「あなたは真の教育をしているのか」と自己批判を迫る生徒にオラも戸惑い苦悩した。当時の日本は荒れる大学紛争の嵐の最中。井戸のなかにも「体制否定」の水が外部から流れ込むと、子蛙のリーダーたちは「教育の主権を生徒の手に」という奪権闘争に急進化して、この揺れはクライマックスに達した。授業も出来なくなって、学校側と子蛙たちの衝突は決定的になっていった。これはまさに革命で、ラサール井戸は破綻に向かっていくようだった。オラが日ごろ教えている革命模様が目の前で展開していた。革命のパターンは「初期革命→鎮圧と混乱→第二革命→旧体制の崩壊→新体制の成立」と動く。それは怖いが見たいという思いもあった。翌年、ラサール井戸の初期革命は集結し破綻は回避された。失敗した革命だった。ただ、オラの頭の中では確実に変化が生じていた。自らの価値が絶対ではなくなって、それぞれの生徒が持つ固有の価値の大切さが分かってきた。クローン蛙を造る野心は消えてしまっていた。あれから約30年が経過したが、第二革命は起こっていない。その後、この出来事が語られなくなったのはなぜだろうか。それぞれの思い出の中にしまい込まれてしまったのだろうか。今、ラ・サール井戸では一つの時代が終わって、再生への歩みが始まっている。

「“歴史”は未来を予言する」というオラの持論には、二つの柱がある。一つは時代・民族をこえて、人は同じ条件が与えられれば同じ行動パターンをとるというもので、そこから歴史の必然を推理する事が出来る。いま一つは、国家も社会も文化もパターン化された盛衰のカーブを描くというもので、これを盛衰曲線と名付けている。そこから歴史の予測が可能になる。

悟空の世界史は今も変わっていない。授業は「欠陥動物である人類が思わず草原の中で立ち上がり、これが偶然にも脳

の発達に決定的な意味を持った」というところから始まる。それから400万年後、「人の盛衰曲線」は産業革命によって急上昇する。以前は産業革命を世界史の最高傑作と評価して、いわゆる進歩史観で教えた。しかし、この急上昇がもたらした異常な現実を見て、ここに「人の歴史」の誤りがあったのではないかと思うようになった。最近、そもそも農耕牧畜の開始に問題があったのではと考えている。今、「人の盛衰曲線」は下降へと向かっているように見える。

20世紀はあらゆるものに大きな犠牲を強いて、結局、明るい未来を約束せずに幕を閉じたが、21世紀も困難な世紀となる予感がしてくる。もし救済の道があるとすれば、人類は欠陥の多い動物であるということに認識し、奢らずに多様と共

存の世界を実現する以外にない。日本もこれからさらに長く緩やかな下降が続くものと予測される。この時期を新たな再生の機会とするためには、正しい歴史感覚を持って努力することが必要になる。その意味では、新たな発想で進化している「悟空の世界史」は、まだお役に立ちそうな気がしている。

さて、オラ自身の盛衰曲線の方はどうなっているのか。3年前に大腸ガンで直腸が20センチ短くなった。この病気は、働き者で大事な仕事をしてきた細胞がガン化し勝手に増殖してコントロール出来なくなるのが原因というから、オラの歴史感覚で言えば、どうも体の中で農民反乱（中国史で見られる）が起こったようなものだということになる。細胞異変の発端はほぼ30年前らしく、奇しくも学園

紛争の時期と重なるのは何かの符合を感じる。反乱は一時的には鎮圧されるが、やがて大規模反乱が起こって王朝は“死態”（おなじみの）となり、やがて滅亡する。悟空蛙もこのパターンをたどるのだろうか。ここで“死態”となった王朝は成功する見込みのない改革を試みるのだが、オラは無駄な抵抗はするまい。そうになったら、井戸の中から広い世界に向かって、自転車に乗って“悟空の大冒険”を始めようと思っている。

年寄りに語らせれば、ついつい、むかし話とお説教になってしまうのが相場だが、オラもすっかり、これにはまってしまったようだ。それでは、こころで本日の授業を終わらせてもらいます。皆さんの盛衰曲線がますます上昇していくことを期待しながら。

大学別合格者数

国立大学					国立大学					国立大学							
		14年		13年				14年		13年				14年		13年	
		現	浪	現	浪			現	浪	現	浪			現	浪	現	浪
北海道大	7	8	12	11	秋田大	0	1	2	1	金沢大	0	0	0	1			
(文系)	4	4	4	0	山形大	0	0	4	1	滋賀大	0	1	0	0			
(理系)	3	4	8	9	茨城大	2	0	1	0	信州大	0	2	0	1			
(医系)	0	0	0	2	筑波大	0	1	1	0	静岡大	0	1	0	0			
北海道大	1	1	1	0	千葉大	1	1	2	0	名古屋大	0	0	1	0			
室蘭工業大	1	1	2	1	埼玉大	1	0	1	0	三重大	0	1	0	0			
小樽商科大	1	0	2	2	東京大	1	4	4	1	京都大	1	1	1	2			
旭川医科大	2	1	2	0	東大	1	0	0	0	京大	0	0	0	1			
北見工科大学	0	1	0	0	東大	0	1	0	0	京大	0	0	4	0			
弘前大	4	3	8	3	東大	0	2	0	0	京大	1	0	0	0			
岩手大	0	0	1	0	東大	1	0	1	0	徳島大	1	0	0	0			
大宮大	5	2	2	5	東大	1	0	3	1	九龍大	1	0	0	0			
(文系)	2	1	0	2	東大	0	0	6	0	琉球大	0	1	0	0			
(理系)	3	0	2	2	新富	1	0	0	1								
(医系)	0	1	0	1													
公立大学					公立大学					公立大学							
		14年		13年				14年		13年				14年		13年	
		現	浪	現	浪			現	浪	現	浪			現	浪	現	浪
札幌医科大学	4	3	3	2	都立科学技大	0	0	1	1	大阪府立大	0	0	1	0			
山形保健医大	0	1	0	0	横滨市立大	0	1	0	0	青森県立保健大	0	1	1	0			
山形保健医大	0	1	0	0	はこだて未来大	1	0	2	0	森宮大	0	0	0	2			
山形保健医大	0	0	1	0	大阪市立大	0	0	1	0								
大学校					大学校					大学校							
		14年		13年				14年		13年				14年		13年	
		現	浪	現	浪			現	浪	現	浪			現	浪	現	浪
防衛大学校	1	1	3	0	気象大学校	1	0	0	0								
防衛医科大学校	0	1	0	1	海上保安大学校	0	1	1	0								
私立大学					私立大学					私立大学							
		14年		13年				14年		13年				14年		13年	
		現	浪	現	浪			現	浪	現	浪			現	浪	現	浪
千歳科学技術大	0	4	2	1	慶応義塾大	5	7	8	5	法政大	3	2	9	6			
北海道情報大	1	0	0	0	工学院大	0	1	0	1	明治大	2	6	10	4			
酪農学園大	0	1	0	1	国学院大	0	0	1	1	明治大	2	0	0	0			
北海道東海大	1	0	0	0	国士舘大	0	1	0	0	明治大	0	1	0	0			
北海道医療大	0	10	0	3	駒沢大	0	0	1	1	立教大	4	1	5	0			
北海学園大	2	1	0	0	国際基督教大	0	2	7	0	早稲田大	9	6	8	11			
北海学園大	1	2	1	1	芝浦大	0	3	1	5	神奈川大	0	1	0	0			
北海道工業大	0	0	0	3	昭和薬大	1	1	1	0	関東大	0	0	1	0			
北海道薬大	1	2	0	1	成蹊大	0	1	0	0	マリアンナ大	1	0	0	0			
札幌医科大学	0	1	0	3	専創大	0	1	3	0	新潟大	0	0	0	3			
札幌医科大学	0	0	0	2	大拓大	1	0	0	0	中京大	0	0	0	1			
札幌医科大学	0	0	1	1	和洋大	0	2	0	0	皇同立大	1	0	0	0			
札幌医科大学	0	1	0	0	和洋大	0	1	0	0	同立大	3	4	1	4			
札幌医科大学	0	0	1	0	和洋大	0	1	0	1	同立大	1	4	1	3			
札幌医科大学	0	0	0	1	和洋大	7	7	11	5	同立大	1	1	1	1			
札幌医科大学	0	0	0	1	和洋大	2	0	1	1	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	1	0	0	0	和洋大	0	0	3	2	同立大	0	0	1	0			
札幌医科大学	0	0	0	1	和洋大	0	1	0	0	同立大	0	0	1	0			
札幌医科大学	0	0	0	1	和洋大	2	2	4	0	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	1	0	1	4	和洋大	0	0	0	1	同立大	0	0	0	2			
札幌医科大学	0	0	1	0	和洋大	1	3	2	2	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	0	0	1	0	和洋大	12	4	4	9	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	2	2	7	2	和洋大	1	0	0	1	同立大	1	0	0	0			
札幌医科大学	0	1	0	0	和洋大	1	0	1	3	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	1	0	0	0	和洋大	0	4	2	4	同立大	0	0	0	1			
札幌医科大学	1	0	1	1	和洋大	0	4	2	4	同立大	0	1	2	3			
札幌医科大学	0	0	1	0	和洋大	0	1	0	1	同立大	0	1	2	3			

2001年度 クラブ戦績

母校にはいろいろなクラブがあり、活動も活発です。そこで、今号より、各クラブの対外戦績をお知らせ致します。会員各自が所属していた当時に思い出していただけたら幸いです。

アーチェリー部

春季高校全道大会 団体戦 1回戦敗退
 秋季高校全道大会 団体戦 6位

硬式野球部

春季北海高等学校野球大会
 函館地区予選 2回戦敗退
 全道高校野球選手権大会 北海道大会
 函館地区予選 1回戦敗退
 秋季北海道高等学校野球大会
 函館地区予選 1回戦敗退

柔道部

函館支部春季柔道大会 団体戦 優勝
 函館支部柔道大会 団体戦 3位
 函館支部秋季柔道大会 団体戦 4位

剣道部

高体連春季大会 団体戦 優勝
 高体連地区予選大会 団体戦 3位
 北海道大会 団体戦 優勝
 高体連秋季大会 団体戦 準優勝

水泳部

函館支部春季大会
 100m背泳ぎ 佐々木健祐 3位
 200m個人メドレー 武石啓二郎 3位
 函館支部大会
 100m背泳ぎ 武石啓二郎 3位
 100m平泳ぎ 伊尾 紳吾 3位
 100mバタフライ 真木 喬敏 3位
 400mメドレーリレー 2位
 函館支部新人戦大会
 50m自由形 伊尾 紳吾 3位
 200m平泳ぎ 佐々木健祐 2位

ハンドボール部

春季大会 準決勝 敗退
 高体連函館地区大会 準決勝 敗退
 全道大会 2回戦敗退

硬式テニス部

高体連函館支部春季大会
 団体戦 1回戦敗退
 高体連函館支部テニス選手権大会
 団体戦 1回戦敗退

相撲部

函館地区相撲大会 団体戦 3位
 全道高校相撲選手権 団体戦 5位
 全道高校相撲新人選手権 4位

卓球部

高体連函館支部春季卓球大会
 団体戦 1回戦敗退
 高体連函館支部卓球大会
 団体戦 2回戦敗退
 高体連函館支部秋季卓球新人戦大会
 団体戦 1回戦敗退

ワンダーフォーゲル部

函館地区高体連登山大会 第3位

陸上部

道南春季大会
 100m 岩井 宏隆 2位
 400m R 2位
 高体連函館支部大会
 100m 岩井 宏隆 3位
 200m 大嶋 元洋 1位
 400m R 3位
 走高跳 中島 寿基 3位
 砲丸投 大野 浩太 3位
 八種競技 生田 総司 1位
 総合 3位

ソフトテニス部

高体連函館支部秋季ソフトテニス大会
 団体戦 優勝

軟式野球部

春季函館支部軟式野球大会 準決勝 敗退
 秋季函館支部軟式野球大会 準決勝 敗退

バスケットボール部

函館支部春季大会 2回戦敗退
 函館支部秋季大会 2回戦敗退

体操部

高体連春季大会
 2部 個人 畠山 正之 1位
 伊原 義博 1位
 高体連地区大会
 2部 個人 畠山 正之 1位
 伊原 義博 2位

ラグビー部

国体函館地区予選 2回戦敗退
 高体連支部予選 1回戦敗退

バレーボール部

函館支部春季大会 2回戦敗退
 函館支部国体予選 1回戦敗退
 函館支部秋季大会 2回戦敗退

バトミントン部

函館地区バドミントン大会 団体戦 3位
 函館支部新人バドミントン大会
 団体戦Bブロック 2位

吹奏楽部

北海道吹奏楽コンクール
 南ブロック大会 金賞

図書局

全道図書館報コンクール 優秀賞

放送局

北海道高等学校文化連盟道南地区大会
 ビデオメッセージ部門 優秀賞

棋道部

函館地区将棋大会 団体戦 優勝
 全道高校囲碁選手権 団体戦 優勝
 全道囲碁研修会 宮嶋 昇平 優勝

グリー部

全道合唱コンクール
 高校生以下Aの部 銀賞

写真部

高文連道南支部地区大会
 佐藤 康介 入賞

美術部

道南支部美術展
 油彩 鈴木 康夫 最優秀賞

事務局だより

同窓会では同窓会行事はもちろん、母校及び支部行事にも積極的に役員を派遣しています。その中から、この1年間の主な参加行事をお知らせします。

- 平成13年8月10日 同窓会総会
- 同 9月2日 札幌支部総会
菅野事務局長、清水事務局次長
- 同 9月25日 奨学金伝達式
渡辺会長
- 同 11月2日 死者の日の集い
- 平成14年2月1日 同窓会入会式

- 渡辺会長他
- 同 2月10日 母校卒業式
佐藤副会長
- 同 4月3日 母校入学式
渡辺会長
- 同 4月19日 東京支部総会
渡辺会長、菅野事務局長